令和８年度　**4学年　授　業　改　善　推　進　プ　ラ　ン**　小平市立小平第一小学校

	課題：児童の実態・学習状況，指導の実態	**改善プラン**：課題改善の方針・具体的手立て
国　語	○話し合い活動の中で、自分の考えを伝えることだけになってしまい、意見交換をして自分の意見に生かしたり、付け加えたりすることが苦手な児童もいる。 ○重要なことや特に伝えたいことを明確にし、内容のまとまりごとに段落をつくって文章の構成を考えながら書くことに課題がある。 ○全体的に既習の漢字の定着に課題が見られる。まとめの５０問テストは頑張れるが小テストへの取組方、宿題の実施率や漢字の意味を考えながら文に合った漢字を使うことに課題みられる。 ○言葉の意味の理解が不十分で語彙力に課題が見られる。	☆根拠を明確にして自分の考えがもてるよう、発問を工夫する。付箋や一人一台端末等を活用し、意見の交流を図る。ペアやグループでの交流を通して自信をもてるよう指導する。 ☆文章を書く前に構成メモに整理する中で、文章のまとまりを意識しながら書く活動に取り組めるようにする。また、書く活動に困難さを感じる児童には型を提示する。 ☆漢字の部首や書き順などを中心に指導し、ドリルを繰り返し活用し、漢字練習を進める。テストに向けて、新出漢字を中心に復習する中で定着を図る。また、授業の中で意識的に新出漢字を使い、定着につなげていく ☆図書の時間や学級文庫、市の図書館の本を活用した読書活動を通して多様な表現に触れられるようにする。また、分からない言葉は授業の中で辞書を引く機会を設けるようにする。
社　会	○社会的事象への関心に個人差が見られる。 ○表やグラフなどの資料を正しく読み取り、複数の資料を見比べたり関連付けたりして思考・判断するカを身に付ける必要がある。 ○課題に対して調べたことから必要な情報を選び、わかりやすくまとめたり、表現したりするカに課題が見られる。	☆各単元の導入部分では、児童の身の回りにあるものなどを取り上げて授業を始めることで、社会的事象への興味・関心を高められるようにする。 ☆既習内容を振り返る中で、新旧のデータを比較して、相違点や類似点を考えられるようにし、表やグラフを正しく読み取るカを育てる。 ☆各単元のまとめの場面で、ノート、新聞、ポスター、スライドなどに書く活動を設定し、選択・調査したことをわかりやすくまとめたり、表現したりする情報選択能力を育む活動を充実させる。
算　数	○分度器や三角定規を使って作図したり測定したりするカを身に付けさせる必要がある。 ○計算を苦手とする児童が見られる。かけ算九九やわり算の筆算の仕方、小数の位取りについて定着を図る必要がある。 ○全体として文章題から言葉や図を用いて考えるカと説明するカを身に付けさせる必要がある。 ○既習事項の定着を図る必要がある。	☆問題を解く際は、見当を付ける習慣を身に付けさせる中で量感を養っていく。 ☆授業開始３分を使い、四則計算に継続的に取り組む中で計算力の定着を図る。 ☆東京ベーシックドリルを積極的に活用し、計算や作図等、基礎基本の定着を図っていく。 ☆自力解決する時間を十分に確保するとともに、ICTや掲示物などを活用して視覚支援を行い、理解が不十分な児童に既習事項を想起できるヒントを提示し、課題解決できるようにする。 ☆問いに対する『なぜ？』を大切にし、考え方を図や式、言葉で表す活動を取り入れる。また、根拠をもって立式するように指導する。 ☆立式の際は、ポイントとなる言葉や数に着目させてアンダーラインを引いたり、問題場面を線分図に表したりすることによって、数量関係をとらえられるように指導する。 ☆学習した内容をプリント等で振り返り定着できるようにする。
理　科	○実験・観察に意欲的な児童が多いが、結果から自分の言葉で考察し結論を考える力に差が見られる。 ○根拠を明確にして予想や仮説を立てる力が不十分である。また自分で立てた予想や仮説を証明するための実験方法（比較・条件をそろえる等）を考える力を身に付ける必要がある。 ○予想や実験で得た結果を様々な場面と関連付けて考えることが苦手な児童が多い。	☆結果（事実）と結論について書き分けるために、文例を示して表現の仕方を具体的に指導する。また、実験・観察後は、結果を比べたり関連付けたりすることで事象の意味や性質を考えられるようにする。 ☆「問題、予想、実験の方法を考える、結果、考察、結論」という学習の流れを明確にして取り組ませ、理解の定着を図る。実験方法を考えたり考察をしたりする時には、個人で考えた後にグループで意見を交流し、全体で発表する機会を設ける。 ☆問題に関連する既習事項や生活経験について意見交流をする時間を設定し、そこから根拠のある予想や仮説を立てる力を高める。
音　楽	○何にでも積極的に取り組むことができ、音楽を楽しむ姿が見られるが、技能面は個人差があり、個別の支援が必要である。 ○演奏する曲の特徴や歌詞の意味等を読み取って、表現豊かな歌唱、演奏ができるようにしたい。	☆一人一台端末などの情報機器を活用したり、楽譜の難易度をいくつか用意したりして、個人差にも対応できる指導法を工夫する。 ☆曲の特徴について全体で話し合い、その特徴をもとにどのように表現すればよいか考えられるようにする。目指す表現に向けて、友達と聴き合い高め合う場を設定したり、教師が演奏方法や発声などを具体的に指導したりする。
図　工	○学習活動に必要な指示や説明の理解に個人差があり、学習に必要な内容を理解できるよう、配慮が必要である。 ○自分の表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考える力を伸ばしたい。	☆板書、書画カメラ、一人一台端末などを活用し、視覚的に理解したり、後から確認したりできるよう配慮する。個別に声を掛け、支援する。 ☆試しながらつくることのできる題材や繰り返しやってみることのできる題材を計画的に設定する。様々な材料や道具に触れる中で、表したいことを見付けたり表し方を工夫したりする題材を設定する。
体　育	○全体的に体育の授業を楽しみ、すすんで取り組む児童が多い。 ○友達と協力して運動に励んでいる。 ○技能を高めるためにはどのような運動や練習が効果的であるのかを児童自らが考える力を身に付ける必要がある。 ○自分の課題をもち、工夫して運動するカを身に付ける必要がある。 ○「器械運動」の取り組みについては技能の習得状況に個人差が大きいので技能を高める必要がある。	☆技能ポイントを示した学習カードや動画などを活用し、児童が自分の能力に応じてめあてをもって取り組めるようにする。 ☆めあてに対して「どのように取り組んだのか」「次回はどのように取り組めばよいのか」を振り返ることができるように学習カードを活用したり、アドバイスなどを伝え合う機会を多く設けたりする。 ☆実態に合わせて課題解決のための様々な場を設定し、自己の課題に合わせて選択できるようにする。 ☆動きの様子を動画で撮影し、児童が自分の動きを振り返ることで、課題や改善点を見出せるようにすると共に児童同士アドバイスタイム（交流）の時間を確保する。
道　徳	○積極的に意見を述べる児童が多いが、一面的な見方・考え方をしたり、自分の課題として捉えられなかったりする児童がいる。 ○教材と自己の経験を関連付けて振り返ることが苦手な児童が見られる。	☆「考え、議論する道徳」の実践を図り、友達と意見交流する場面を意図的に設定したり、学習コンテンツを活用し内面を可視化したりすることで、多様な見方・考え方があることに気付けるように指導する。また、意見共有にペアやグループなどの対話形態を通して、短時間でより多くの友達と交流できるようにする。 ☆自己を見つめ直すことができるように、振り返りの時間を十分確保する。
外国語活動	○簡単な挨拶や自己紹介など、対話を通して、意欲的に取り組んでいるが、個人差が大きい。 ○チャンツやアクティビティを通して、楽しみながら取り組んでいる。	☆一人一台端末を活用し、自分のことを表現しやすくできるようにする。また、どのように発音するか不安な児童向けに一人一台端末で音声も付けてカードを配布する。 ☆外国語の音声やリズムなどに慣れ親しめるように、チャンツや絵カードを活用した授業を行う。